

戦前のアメリカ伝道と日系移民社会 ④

おやさと研究所研究員
尾上 貴行 Takayuki Onoue

各系統による組織的な伝道の開始

前号で紹介したように昭和2年(1927)以降、各系統の布教師が宗教家としてアメリカに渡り、活発な活動をする中で、教会が次々と設立されていった。北米伝道史において1933年の2代真柱北米巡教と翌年のアメリカ伝道庁設置は一つの大きな節目となっているが、まずはそれまでの数年間で複数の教会を設立した本島、名京、郡山の各系統についてみていくことにする。

移民としてすでに在住していた本島系の信者として、大正2年(1913)に渡米しポートランドで運送業を営んでいた岡崎薫夫・国枝夫妻、またシアトル郊外の牧場主であった福田又助・ふくえ夫妻があげられる。アメリカ伝道への思いを長年抱いていた片山好造会長は、彼らを台とした伝道の展開を目指して経験豊富な布教師岡崎ヨ子と鳥沢林蔵を派遣することを決定した。両名は1927年に渡米し、ポートランドとロサンゼルスで活動を開始した。ポートランドの地方新聞に、香川県出身の天理教布教師岡崎ヨ子が日本より到着した旨が掲載された。身上で苦しんでいた同県出身の松田(後、藤井)テルコは、その記事を見て同郷のよしみもあり訪ねたところ、おさづけを取り次いでもらおうと不思議なご守護をいただいた。こうしてテルコはヨ子のアメリカでの信者第一号となり、以後その手足となって、布教活動のみならず働きながら経済的な支援も行った。また岡崎、鳥沢派遣の後、1928年鳥沢きよ、菊野豊吉、岡崎正史、1929年柴田エイ、村岡伊三郎・よね夫妻、福島ハマ、1930年岡崎英子、1932年鳥沢繁弐・逸子夫妻、1933年横田ジツなど十数名の布教師が渡米している。そして1928年本島系最初のポートランド教会設立を皮切りに、1932年までに合計7カ所の教会が設立されたのである。

名京大教会部属東山梨出張所の理事兼会計であった神沢常太郎は、明治36年(1903)に所属教会借財返済を解決するため妻子を残し単身で渡米し、サンフランシスコで洗濯屋を経営していた。1927年におぢばがえりした際に教会設立の認可を得て、サンフランシスコ教会を設置。これがアメリカにおける最初の本部公認教会となった。諸井忠彦名京大会長は、翌年同教会鎮座祭を機に80日間のアメリカ巡教を行った。『名京大教会史』には、

昭和3年1月本部大祭の際、忠彦会長は真柱様に渡米のおゆるしを願い出られた。時に「お前はサンフランシスコ教会の鎮座に行くのであるが、海外の地は内地と異一つの大教会として行くようなことでは心が小さい。天理教から来た、本部から来たという大きな精神をもって渡らねば大きな働きはできない。そうでなかったらおぢばへ帰って来て教祖に何という御返事申し上げることが出来るか」というお言葉があり「宗教視察のため出張を命ず」とのお許しを頂き、勇躍渡航準備に取かかった。(天理教名京大教会史料部、76頁)

とある。諸井会長は、3月から7月にかけてサンフランシスコ、ロサンゼルス、シアトル、ポートランドなどを巡回。2代真柱の言葉を受け、「一、各地新聞社訪問、来訪の意を述べ新聞記事をもって講演会並に映画会の紹介をする。二、在米同胞に対し天理教の教義並に現況の宣伝。三、北米各地に散在する本教教

師及び授訓者、信徒の所在探索。四、教師、教徒、信徒の統一団結を図りその指導育成をなす。又本部海外伝道部との連絡を緊密にしつつ伝道の状況を報告。五、各地の移民官、領事、日本人会を歴訪し本教教師等の入国並に布教に対する理解を求め布教師渡米について移民館と接衝する。」(天理教名京大教会史料部、77頁)の方針の下、各地で天理教講演会、映画会を催し、日本領事館、邦字新聞社、日本人会を訪ねるなど、さまざまな布教宣伝活動につとめた。また他系統の教友とも交流している様子が報告されている。この巡教にあわせて大教会役員小栗光、布教師伊藤久仁麿、宮野義一、吉沢実の4名が渡米し、諸井会長帰国後も現地に残って布教活動に従事した。巡教の同年、さらに布教師として古牧芳吉、杉山金太が渡米。翌1929年岩間瑛、小野資一郎、布野光蔵、吉沢房子、1930年小島久満吉、宮野美津子、1931年小野忠子、布野ウシエ、1933年大門茂子、小島近子、宮野幸子などの布教師が派遣され、小栗光北米伝道監督と神沢常太郎サンフランシスコ教会長の指揮の下、各地で布教活動を展開した。教会も1927年のサンフランシスコ教会を初めとして、1933年までの間に合計12カ所の教会が設立されている。

明治28年(1895)に渡米しポートランドで船員、洋服店員などをしていた緒方新蔵は、甥の東田春雄(郡山部属)の手紙により天理教を知り入信。日本へ一時帰国し、おさづけの理を拝戴して再渡米したのちはロサンゼルスに在住し集談所を開設。レストランで働きつつ布教活動に従事していた。東田春雄は、布教師として1927年に渡米し、緒方と共に活発な布教を行い、同年カリフォルニア州政府から認可を得てノウスアメリカ教会を設立。アメリカにおいて最初の現地州政府公認の教会となった。その後、緒方留治郎、荒木一彦、本田兼記らが布教師として渡米し、1933年に3つの教会を開設している。

こうして1927年から1933年の2代真柱巡教までに、名京、本島、南海、甲賀、名東、伊野、郡山の各系統の教会が次々と設立された。いずれも宗教家として渡米した布教師が、すでに在住していたようばく・信者の協力を得ながら活発に布教を行っていた様子が窺われる。しかし、世界的不況の中で日本の生活も苦しい時代であったため、派遣及び渡米後の生活は楽なものではなかった。高野友治によると、昭和初期に布教師を一人アメリカへ派遣するのに1,000円かかり、当時の大学卒の月給が60円、専門学校卒が40円であることを考えると、大体2年分の給料が必要であった(「アメリカの伝道者たち」『みちのとも』1977年11月号60頁)とのことであり、布教師を派遣するには多額の費用が必要とされた。また布教師たちの渡米は宗教家としての許可であり就労は許されなかったため、移民として在住していた教信者、また病気を救われて入信した人々などによる財政面での援助が布教師たちの滞在と布教活動において不可欠であった。

[参考文献]

本島大教会史編纂・史料収集委員会編『天理教本島大教会史』(天理教本島大教会、1992年)。
天理教名京大教会史料部編『稿案 名京史 後編 第二巻』(天理教名京大教会史料部、1963年)。
中島秀夫『母ひとり、海を渡る：東田ナカとアメリカ布教』(天理教道友社、1986年)。